

VII. 普及啓発

1. 市町村のための廃棄物政策力向上セミナー

市町村担当者のスキルアップを目的として、「市町村のための廃棄物政策力向上セミナー」を実施した。

1) 開催場所、日時

熊本市 「メルパルク熊本」：平成22年2月15日（月）、16日（火）

那覇市 「沖縄県青年会館」：平成22年3月9日（火）

2) 参加人数

熊本市「メルパルク熊本」での参加人数及び団体数は以下のとおりである。

参加人数及び団体数(熊本市)

| | | 実人数 |
|-----------|----------|-----|
| 実人数（人） | | 176 |
| 共通研修（人） | | 144 |
| テーマ別研修（人） | | 127 |
| | 第1分科会（人） | 66 |
| | 第2分科会（人） | 61 |
| 参加団体数（団体） | | 97 |
| | 福岡 | 27 |
| | 佐賀 | 5 |
| | 長崎 | 4 |
| | 熊本 | 45 |
| | 大分 | 4 |
| | 宮崎 | 4 |
| | 鹿児島 | 3 |
| | 沖縄 | 1 |
| | その他 | 4 |

那覇市「沖縄県青年会館」での参加人数は、30人であった。

3) プログラム

熊本会場でのプログラムは次ページのとおりである。なお、那覇会場では、熊本会場と同じ資料を用い、熊本会場での発表内容の紹介及び「地域循環圏に関する九州会議」での検討状況について報告を行った。

4) 内容

内容については、参考資料にセミナー時に配布した資料を添付した。

市町村のための廃棄物政策力向上セミナー プログラム

平成22年2月15～16日 メルパルク熊本

| | | | |
|-----------|--------------------|---|--------------|
| 1. 共通研修 | 「生ごみ対策、食品リサイクル」 | 15日 13:00～17:30 | (会場：根子岳-3階-) |
| 12:00 | 受付 | | |
| 13:00 | 開会挨拶 | 環境省 九州地方環境事務所 所長 神田 修二 | |
| 13:05 | 基調講演 | 『自治体におけるバイオマス利活用の現状と今後の方向性について』 (財) 京都高度技術研究所 バイオ研究部長 中村 一夫 | |
| 14:05 | 九州会議報告 | 『「地域循環圏に関する九州会議」について』 九州大学大学院 工学研究院 准教授 中山 裕文 | |
| 14:35 | | 『生ごみ対策の実情と市町村コスト分析について』 (財) 日本環境衛生センター 企画事業部 課長代理 土谷 光重 | |
| 14:55 | 休憩 (15分間) | | |
| 15:10 | 事例発表 | 『川口市における廃棄物会計基準の導入について』 川口市 環境部 廃棄物対策課 対策係長 渡部 浩一 | |
| 15:40 | | 『市民発！農家と家庭をつなぐ生ごみリサイクル』 川崎・ごみを考える市民連絡会 代表 環境カウンセラー 飯田 和子 | |
| 16:10 | | 『霧島市における生ごみリサイクルの取組』 霧島市 生活環境部 環境衛生課 廃棄物対策グループ 主査 末松 正純 | |
| 16:45 | パネルディスカッション | 『生ごみ対策、食品リサイクル』 コーディネーター : 中山 裕文 パネラー : 中村一夫、渡部浩一、飯田和子、末松正純、土谷光重 | |
| 17:30 | 終了予定 | | |
| 2. テーマ別研修 | | | |
| 2-1 第1分科会 | 「生ごみ対策、食品リサイクル」 | 16日 9:30～12:30 | (会場：高岳-3階-) |
| 8:45 | 開場・受付 | | |
| 9:30 | 講演 | 『地域循環圏と生ごみ・食品リサイクル対策』 北九州市立大学 国際環境工学部 教授 松本 亨 | |
| 10:25 | 九州会議報告 | 『生ごみ資源化事例の整理と食品廃棄物等の処理業者情報について』 (財) 日本環境衛生センター 企画事業部 課長代理 土谷 光重 | |
| 10:40 | | 『生ごみ資源化実施市町村におけるコスト分析結果及び生ごみ資源化の効果』 (財) 日本環境衛生センター 企画事業部 課長代理 土谷 光重 | |
| 11:00 | 休憩 (10分間) | | |
| 11:10 | 事例発表 | 『生ごみの再生利用で町を元気に』 多良木町 町民福祉課 参事 吉村 和記 | |
| 11:35 | | 『生ごみの分別収集への取り組み』 平戸市 生月支所 市民協働課 福井 友亮 | |
| 12:00 | 意見交換 | | |
| 12:30 | 終了予定 | | |
| 2-2 第2分科会 | 「広域リサイクル」 | 16日 9:30～12:30 | (会場：中岳-3階-) |
| 8:45 | 開場・受付 | | |
| 9:30 | 九州会議報告 | 『九州における広域リサイクルに関連する調査 -自治体アンケート結果概要-』 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 環境・エネルギー部 副主任研究員 佐々木 創 | |
| 10:10 | 事例発表 “焼却灰等のリサイクル” | 『焼却灰セメント原料化の動向と課題』 (財) 日本環境衛生センター 環境工学部 部長 岩永 宏平 | |
| 10:40 | | 『三池製錬(株)による溶融飛灰・焼却飛灰のリサイクル』 三池製錬(株) 代表取締役社長 長崎 英範 | |
| 11:10 | 休憩 (5分間) | | |
| 11:15 | 事例発表 “小型家電等のリサイクル” | 『九州地域における小型家電等のレアメタルリサイクル可能性調査 -現状報告-』 九州経済産業局 リサイクル推進課 課長 松崎 治洋 | |
| 11:40 | | 『福岡県におけるレアメタルリサイクル推進事業の概要』 (財) 福岡県環境保全公社 リサイクル総合研究センター 企画情報課 課長 堀家 克巳 | |
| 11:35 | | 『「ランプ to ランプ」を目指す蛍光管リサイクル』 (株) ジェイ・リライツ 代表取締役社長 櫻井 文夫 | |
| 12:05 | | | |
| 12:30 | 終了予定 | | |

5) セミナー終了後のアンケート調査

セミナー終了後のアンケート調査結果について以下に整理した。

セミナー参加者アンケートの集計結果

A. 参加者と今回のセミナーについて

a. 参加者の普段の仕事、立場等

| 事務職 | 技術職 | 管理職 | 一般職 | 企画・立案 | 現場管理・運営 |
|-----|-----|-----|-----|-------|---------|
| 58 | 18 | 8 | 36 | 7 | 5 |

b. 参加した研修

| 共通研修 | 第1分科会 | 第2分科会 | 懇親会 |
|------|-------|-------|-----|
| 92 | 43 | 39 | 6 |

c. 参加の感想

| とても参考に なった | ある程度参考 になった | あまり参考に ならなかった | まったく参考に ならなかった |
|---------------|----------------|------------------|-------------------|
| 32 | 75 | 5 | 1 |

d. 参考になった講演、事例発表等

| | | |
|-------|--------------------------------------|----|
| 共通研修 | ①自治体におけるバイオマス利活用の現状と今後の方向性について | 35 |
| | ②地域循環圏に関する九州会議について | 8 |
| | ③生ごみ対策の実情と市町村コスト分析について | 16 |
| | ④川口市における廃棄物会計基準の導入について | 33 |
| | ⑤市民発！農家と家庭をつなぐ生ごみリサイクル | 22 |
| | ⑥霧島市における生ごみリサイクルの取組 | 46 |
| | ⑦パネルディスカッション | 5 |
| 第1分科会 | ⑧地域循環圏と生ごみ・食品リサイクル対策 | 2 |
| | ⑨生ごみ資源化事例の整理と食品廃棄物等の処理業者情報について | 7 |
| | ⑩生ごみ資源化実施市町村におけるコスト分析結果及び生ごみ資源化の効果 | 11 |
| | ⑪生ごみの再生利用で町を元気に | 15 |
| | ⑫生ごみの分別収集への取り組み | 15 |
| 第2分科会 | ⑬九州における広域リサイクルに関連する調査－自治体アンケート結果概要－ | 3 |
| | ⑭焼却灰セメント原料化の動向と課題 | 5 |
| | ⑮三池製錬(株)による溶融飛灰・焼却飛灰のリサイクル | 14 |
| | ⑯九州地域における小型家電等のレアメタルリサイクル可能性調査－現状報告－ | 5 |
| | ⑰福岡県におけるレアメタルリサイクル推進事業の概要 | 4 |
| | ⑱「ランプtoランプ」を目指す蛍光管リサイクル | 12 |

e. 参考にならなかった点

- ①研修は1日にまとめて行うべきだ。
- ②実際に生かせる内容とは思えなかった。
- ③発表内容の選定にもう少し工夫がほしい
- ④資料の字が小さく見にくい

B. 今後のセミナーについて

a. 希望する開催時期

| 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | 1～3月 |
|------|------|--------|------|
| 8 | 46 | 20 | 39 |

その他： いつでもよいが、少し早い時期が良い。

b. 希望する形式

| 座学 | 施設見学 | 討論 | その他 |
|----|------|----|-----|
| 56 | 68 | 15 | 3 |

c. 取り上げて欲しいテーマ

| 有料化 | 会計基準 | スキーム改善策 | 焼却炉・溶融炉 | 埋立処分場 | 容り法 | 温暖化・省エネ法 | 災害対策 |
|-----|----------|---------|---------|---------|-------|----------|------|
| 14 | 27 | 28 | 27 | 19 | 25 | 30 | 12 |
| 生ごみ | プラスチックごみ | 紙ごみ | レアメタル | その他資源ごみ | 事業系ごみ | 不法投棄 | その他 |
| 29 | 28 | 7 | 8 | 8 | 36 | 39 | 6 |

その他： ○山元還元処理、○漂着ごみ、○収集運搬経費の積算、○発生抑制の取組ならびに啓発のノウハウについて、○事業系廃棄物のリユース・リサイクル、○大規模都市の生ごみリサイクル

その他の意見

- 資料が読みづらい（照明を落とすため、文字が小さい）
- 京都市の事例は、全国的、地方都市ではなかなか一致しないと考えられる。
- 我が町は生ごみの分別を全町で実施している町です。今回生ごみ分別主体の研修会を実施されるにあたり、せっかくだったら「全部」「一部」実施しているとかの参加者の実態を把握されていてもよかったのではと感じた。自治体職員はたぶん、分別する際の実務的な手法を聞きたいのではと考える。
- 事例発表を中心にしてほしい。
- 食品リサイクルの取り組みの前段、発生抑制の取り組み（啓発等）について事例を学びたい。自治体でなく製造メーカーが回収・再生を担う社会づくりへの方向性を持った取り組みをつくっていききたい。
- 資料集の巻末に（簡単でいいので）用語集を付けてほしい。
- 2日目の内容は良かった
- パワーポイントの文字が小さく、そのため手元の資料を見ても文字が小さい。おまけに暗いことから非常に見づらい研修だった。
- 資料について、白黒であり見にくかった、字が小さかった。

アンケート調査結果から、次回のセミナーに向けて以下のような点について検討する必要があると考えられる。

①参考となった発表について

事例発表について「参考になった」という意見が多く、次回の構成については事例発表を多めにするなどの配慮が必要であると考えられる。

②希望する形式について

施設見学をあげる声が多く、セミナーメニューへの追加について検討を行う必要がある。

③取り上げてほしいテーマ

市町村担当者の興味が多岐に渡っていることがわかる。全体の構成を見直す必要がある。

④資料作成等について

資料の文字が小さいという意見が多く、次回の資料作成に関しては注意が必要である。

2. 食品関連団体への普及啓発

普及啓発用として、次の二つの冊子を作成した。

- ①食品リサイクル法の概要 食品リサイクル肥料、エコフィード(食品残さ飼料)の認証制度 九州における生ごみ・食品リサイクル事例(資料集)
- ②九州地域における食品廃棄物等の処理業者情報

これらの冊子を使用し、下記団体の事務局に説明し、各団体会員への配布を依頼した。また、②の「九州地域における食品廃棄物等の処理業者情報」については、市町村のための廃棄物政策力向上セミナーにおいても参加者に配布した。

- 社団法人日本セルフ・サービス協会 九州地区スーパーマーケット協会連合会
本事務局は福岡県スーパーマーケット協会事務局も兼ねている。
- 全旅連九州・沖縄ブロック会 福岡県旅館ホテル生活衛生同業組合
- 日本フードサービス協会九州ブロック協議会
- 沖縄県内の事業者等

平成22年3月10日那覇市「沖縄県青年会館」で行われた食品リサイクル法説明会出席者41人に対して、上記2冊子を配布し説明を行った。